

十人十色の、ミライを咲かせる

2024 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2024 英語-①

- ・全体的に難しくなった。特に求められる語彙力のレベルが上がってきている。
- ・例年難しめな文法問題も、今年はさらに難しかった印象。
- ・長文の長さは変わらずだが、より正確な読み取りを求められた。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	設問の形式は昨年と同様だが、使われる単語の難化とともに、聞こえた単語や疑問文の形式に機械的に反応して答えると間違えるように作られたひっかけの問題が多く含まれており、かなり難しくなった印象。	キーワードを拾うような聞き取りでは対処できず、しっかりと文脈と内容を追う必要のある問題になった。英文を聞く機会を意識的に増やしていく必要がある。
問2 適語補充	形式は昨年と同様だが、(ア) neighborや(イ) hurtなど、より難しい単語が出題されるようになった。	特に、高校から中学に降りてきた単語が狙われやすい。書けるようになる必要はないので、まずは読み方と意味を押さえよう。
問3 適語選択	例年難しめであることもあって、難易度、形式ともに昨年から大きな変動はない印象。一方で(エ)で問われたagainstなど、やはり出題される単語のレベルは上がっている。	(ア)では、空所を含む部分が文全体の主語になる名詞節であることを見抜く必要があったり、(イ)では、～thingを修飾する形容詞はその前ではなく後に置く、という細かいルールを問われたりと、空所補充の問題としては難易度が高い。日々の文法学習をしっかりと。
問4 語順整序	こちらも問3と同様、例年通り難しい問題だった。特に前置詞で終わる目的格の関係代名詞の省略が問われた(ウ)、thoughを使った副詞節の中にit ... to ~構文を入れ込んだ(エ)は多くの受験生にとって難しかったのではないかと。	一つの文法要素だけが問われることはむしろ稀で、様々な要素が組み合わせの形で問われる大問。普段から、単元別の学習だけでなく、総合的な復習を行うようにしよう。

2024 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5 条件作文	例年通り、疑問詞を使った疑問文を書く英作文。難易度も例年と同じく、基本文を覚えていれば書ける易しい問題だった。	全体的に難易度の高い神奈川のリスニング・文法問題の中で、例外的に易しいのがこの英作文。ほぼ必ず疑問詞を使った疑問文が、基本例文の形で出題される。しっかり覚えて得点に繋げよう。
大問6-8 長文	<p>【問6】 グリーンインフラストラクチャをテーマにしたスピーチ英文。一見すると文全体がかなり長くなったように見えるが、グラフ・図表が本文中に埋め込まれているため、長さ自体は昨年と同程度だった。(ア)は本文の内容に適するグラフを選ぶ問題から、本文中のグラフと文脈を参照して空所に入る選択肢を選ぶ問題に変化した。この選択肢はそれぞれがそれなりの長文で、時間のない中で焦らされた受験生が多かったのではないか。</p> <p>【問7】 例年通り、短文と資料を組み合わせた選択式問題。(ア)は読み飛ばすことができず、頭から全文をベタに読んでいく必要があったが、(イ)は最初の空所の選択肢 readyの意味さえわかれば本文を読まずとも2択に絞れる上、あとは最後の空所に関わる部分さえ読めば答えることができた。そうでない場合、ある程度全体を読み込んでいく必要があり、語彙力がシビアに響く出題となった。</p> <p>【問8】 若者の政治への関心についての対話文。文全体の長さは昨年とあまり変わらないが、対話の参加者が昨年の3人から4人に増え、その点に絡んだ選択肢も出題された。より細かい部分に注意して読む必要が出てきたと言える。</p>	<p>例年、神奈川県英語長文は文章量が多いが、それに加え、細かな情報の吟味を要求するような問題が出題されるようになった。</p> <p>とはいえ、文法問題と比べると、全体的に易しい問題が多く、焦らず落ち着いて取り組むことができれば得点源にもなりうる。</p> <p>そのためにも、日頃から英文に触れる機会を増やして、読むスピードを上げることが第一。</p> <p>また、入試直前期には、入試形式の問題や過去問を解くことを通じて、自分なりの時間配分を戦略的に考えておくのが大切だろう。</p>

2024 数学-①

- 一部配点の変化があったものの、全体的な傾向、大問の数は例年通り。
- 問6で出題された立体図形の問題では、例年と比べると1問少なくなった。代わりに問2の問題数が1問増えたことにより、基礎的な問題が増えた出題となった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	<p>(ア)～(オ)の5問の計算問題で、問題数は変わらず。</p> <p>昨年は乗法公式を使うルートでの計算が出題されたが、今年は有理化をする計算に出題に戻った。結果、一昨年と同じ傾向となった。毎年、出題に少しの変化があるが、基礎計算ばかりなのですべて正解したいところ。</p>	<p>昨年度も今年度も計算問題に少し変更があったが、教科書レベルの基礎計算の出題となっている。</p> <p>今後もこれまで出題されなかった計算が出題される可能性もあるので、各単元の基礎計算はできるように練習しておく。早く正確に計算ができるようなトレーニングが必要。</p>
問2 小問集合	<p>(ア)～(カ)の6問で例年より1問増えた。</p> <p>過去に出題されてきた形式とほとんど同じであったが、(ウ)の関数では変域から定数aの値を求める出題になり、少し変化がみられた。</p> <p>(オ)では球の体積を求める問題が初めて出題された。</p>	<p>連立方程式、2次方程式、関数の変域や変化の割合、不等式、式の値など出題される問題は過去に出題されてきた形式のものがほとんど。</p> <p>過去問にある形式を確実に解けるよう訓練する。初めて出題される問題が今年もあったが、それも公式に当てはめるだけの基礎的な問題であった。</p> <p>過去問の形式に慣れたら、全国入試でよく出題される基礎的な小問にも触れておくと安心。</p>

2024 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 証明と資料の 活用など</p>	<p>(ア)～(エ)の4問で、証明問題や箱ひげ図の資料を読み取る問題が出題され例年通りの構成。</p> <p>(イ)ではヒストグラムと箱ひげ図の読み取り問題であったが、平均値を求める必要があり計算に時間を要した。</p> <p>(ウ)の図形の問題は今年も難度の高いものであった。</p> <p>(エ)では食塩水の問題で方程式を作って解くものであった。方程式で解く食塩水の問題は教科書でも扱われているような基礎の問題もあるが、今回出題されたものは式を立てるのが難しいものであった。</p>	<p>証明の過程を穴埋めする問題は、前後の記述を丁寧に読んでいけば正解を導きやすい。</p> <p>過去に出題されてきた多くは円周角の定理を使うものであったので、過去問と同じ形式のものから練習していこう。</p> <p>資料の活用は、多くの情報を処理する必要があり、選択肢を確認するのも時間がかかる。</p> <p>入試レベルの問題で多く練習しておくといい。</p> <p>(エ)の対策としては、まずは方程式や関数などの問題で教科書レベルの典型パターンの問題に触れておき、式の作り方を復習すること。</p> <p>割合を使う文字式は出題されやすいので、要注意。</p>

2024 数学-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 関数	<p>例年通りの関数の問題。</p> <p>解法の手順も過去に出題されてきたものと変更はない。2点の座標を求める際に、線分の関係式を使うという点も例年と変わらず。</p> <p>(ウ)は難易度の高いものが今年も出題された。</p>	<p>座標を導くまでの手順がある程度パターン化されている。そのパターンを身につけるため、過去問に触れていく。</p> <p>比や図形的性質を使って座標を求める訓練、座標が分数になっても処理できるような計算力を身に付けていく必要がある。</p>
問5 確率	<p>昨年同様、確率の問題が出題された。</p> <p>例年、問題文が操作1と操作2に分かれているが、過去にはその操作自体が複雑なものが出題されることが多かった。</p> <p>今年はカードの約数を扱うという過去に同じようなものが出題されたパターンで、かつ操作も分かりやすかったため、比較的解きやすい問題となった。</p>	<p>単純にパターンを数えるだけでなく、答えを導くために図形的な性質を使ったり、計算処理をしたりする問題を解いておくこと。</p> <p>時間との勝負となることもあるので、時間配分の仕方を身に付けておくこと良い。</p>
問6 空間図形	<p>立体の問題。</p> <p>(ア)と(イ)の2問のみの出題。展開図の出題となったのは4年ぶり。</p> <p>(イ)の問題は例年の(ウ)に相当する難易度の高いものであった。</p>	<p>図形問題を解く上での着眼点を身に付けていく。</p> <p>三平方の定理や相似は必ず使うので、まずは平面図形での解法から固めていくと良い。</p>

2024 国語-①

- ・問1～3は形式、難易度ともに昨年と変わらずといったところだが、問4はかなり難しくなり、また問5は出題形式に大きな変化があった。そのため、全体的に昨年に比して難易度は上がったと言えるだろう。
- ・一方で、昨年度の入試はかなり易しく、平均点も高めに出ていたため、今年は例年並みの難易度に戻った、といったところ。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	例年同様、漢字の読みと書き、短歌・俳句の読解問題。今年は読みで「辛辣」、書きで「(頬を)紅潮(させる)」といった受験生にとっては馴染みの薄いだろう語句が出題され、易しかった昨年に比べるとやや難易度は上がり、例年並みとなった。短歌の読解は容易に選択肢を絞り込める易しいものだった。	漢字の読みでは、漢検2級レベルのものも出題される。また、読み書きともに、耳馴染みのない語句が出題されることもままある。本を読むときなど、読み方や意味のわからない語は簡単に調べてみるとよいだろう。
問2 物語文	小説の読解。出典は、青森の南部刺繍をモチーフにした高森美由紀「藍色ちくちく」で、昭和中頃を舞台とした、方言を豊富に含んだ作品からの出題となったが、方言の台詞には文中や文末に注が付されていたこともあり、そこまで読みにくいということはなかったのではないかと。各設問の形式は例年同様で、消去法を厳密に使うまでもなく選択肢を絞れる問題も多く、難易度的にも昨年同様易しいものだったと言える。一方で(エ)では、正答となる選択肢がやや紛らわしいものになっており、通常とは違った意味において難しい問題になってしまっていた。	神奈川県の小説の問題では、現代を舞台とせず、歴史上の過去を描いた作品が多く出題される。そういった作品に日頃から触れるようにし、現代と過去の暮らしや文化、習慣の違いを抑えておくと、理解の助けになるだろう。
問3 論説文	論説文の読解。出典は井上雅人「ファッションの哲学」で、ファッションにおけるコミュニケーションと言語的コミュニケーションの差異と両者の関係性について論じたもの。批評用語が多く用いられ、文章自体はやや難解なものではあったが、設問の難易度は昨年同様といったところで、落ち着いて選択肢を吟味すれば十分に答えられたのではないかと。	馴染みのない用語が用いられた難解に思える選択肢も、パーツごとに区切って消去法を使って考えることで絞り込むことができる。特に神奈川県の出題問題は長く独特なので、入試形式の実践的な演習を繰り返して慣れていこう。

2024 国語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 古文	<p>古文の読解。『古事談』から、藤原顕季と源義光の所領を巡る争論と、白河上皇によるその裁定について語った箇所より出題。</p> <p>文章の内容や難易度自体は例年と大きく変わることはなかったが、(ア)の「理非顯然」や(イ)の「零涙」のように、傍線部に難解な語が注釈なしで含まれ、しかもその理解が設問の理解に直結しているという、これまでにない形で難易度を上げてきており、かなり難しくなった。</p>	<p>古文に限らないが、初見の熟語を見たときは、用いられた漢字から意味を類推する癖をつけることがとても大事。</p> <p>本や記事を読むなかで難しい言葉に出会ったら、意味や読み方を類推したうえで、簡単に調べてみるのを習慣化しよう。</p>
問5 資料の読み取り	<p>これまでは対話文と資料の組み合わせで作られていた大問だったが、今年は共通のテーマに関する二つの説明的文章(長谷川真理子「ヒトの原点を考える」・大澤真幸「無意識が奪われている」)、およびそれらを整理した資料との組み合わせという形式に変更となった。</p> <p>一方で小問の作り自体は昨年同様であり、初見の形式に惑わされずに落ち着いて対処すれば、そこまで難しくなったわけではなかったと思われる。</p>	<p>神奈川県これまでの入試の変遷を踏まえると、これは一過性の変化ではなく、少なくとも数年は同様の形式での出題になることが予想される。</p> <p>共通のテーマを持った複数の文章と資料を読み比べる、という形式の問題は大学入試にも繋がる大きなトレンドで、数年前までの特色検査問題では定番だったので、過去問を見てみるのも良いだろう。</p>

2024 社会-①

- ・形式的には大きな変化はなかったが、とくに歴史分野で、大まかな時代ごとの出来事の把握レベルでは対応できない、細かい知識を問う問題が出題されるようになった。全体としてやや難しくなったと言える。
- ・計算を要する問題は少なくなった一方で、設問文や選択肢の細部を見落とすと間違えるように作られた問題が複数見られ、情報の精読が求められた。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>今年はアジア太平洋地域のメルカトル図を用いた出題だが、経線・緯線がそれぞれ5度ずつの間隔で引かれており、この情報を見落とすと(イ)に手こずることになる。</p> <p>その他の点では基本的な内容を問う問題で、難易度に大きな変化はなかった。</p>	<p>世界地図の中の本初子午線、赤道、日付変更線の位置や、明石市の経度といった基本的な情報は必ず覚えてしまうこと。</p> <p>それぞれの地域について学習する際も、世界地図と地域の特色を紐づけて理解するようにしよう。</p>
問2 日本地理	<p>つくば市についてのレポートと筑波山の地形図を用いた問題。</p> <p>(ウ)は筑波山の略断面図として適切なものを選ぶ問題で、珍しい形式だったが、地形図からピークが二つあることを読み取れば易しい問題だった。</p> <p>つくば市の昼夜間人口比率や世界各国の研究費といった受験生にとって初見の資料を用いた(エ)(オ)は、いずれも素直に資料を読めば答えられる問題であり、全体として昨年より難易度は大きく変わらない印象だった。</p>	<p>基本的な知識を抑えることができれば、テスト形式の問題による演習をしっかりを行うことが大切。</p> <p>初見の資料を使った問題でも、きちんと手順を踏めば答えることができる。練習して慣れていこう。</p>

2024 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
<p>問3 近代以前の歴史</p>	<p>東大寺についてのレポートと資料を用いた大問。</p> <p>特筆すべきは東大寺の荘園を示した古地図と現代の同地域の地形図を用いた(イ)で、大学入試共通テストを思わせる分野横断型の設問であり、難易度もやや高かった。</p> <p>また、17世紀に起こった出来事を選ばせる(オ)では、正答が徳川綱吉による貨幣改鋳というややマイナーなものであるうえ、同じく江戸中後期の出来事である天明の飢饉が選択肢に含まれており、昨年までの「大雑把に出来事の前後関係を把握していれば答えられる」というレベルから、より正確な年表把握を求める問題が出題されるようになったと言える。</p>	<p>特に江戸時代は、多くの史料が現代に残っており、細かい知識を問いやすい時代になっている。</p> <p>基本を抑えたら、一步踏み込んだ学習をしてもいいだろう。</p>
<p>問4 近代以降の歴史</p>	<p>日本の野球の歴史についての調べ学習という切り口で作られた問題で、その設定を活かした(ウ)や公民分野との融合問題の(エ)など、ユニークな設問が見られた。</p> <p>しかし、注目すべきは(オ)で、出来事を起きた順に並べるよくある形式の問題ながら、選択肢中に高校入試では滅多に出題されない大西洋憲章が含まれているうえ、それぞれの出来事も比較的短い期間で起こったものであることもあり、難問だったと言ってよい。</p>	<p>歴史分野で問われる知識が細かくなっているのは昨年からの傾向で、神奈川県これまでの入試の出題パターンから考えると、あと数年はこの傾向が続くものと思われる。</p> <p>年表の学習をしっかりと行うとともに、それぞれの出来事の意味をしっかりと抑えて、ストーリーとして把握しておくのも大切。今回の(オ)を例にとると、ファシズムの台頭→連合側へのそれへの反応、というストーリーで考えれば答えることができた。</p>

2024 社会-③

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 公民 経済	<p>日本経済におけるお金の流れを示した図を中心に作られた問題で、あまり見ない形式であった。</p> <p>設問自体はベーシックなものであったが、表層的な暗記だけでは対処できない、理解を問うてくる問題が多く、特に為替を扱った(ウ)、金利について問う(エ)、日銀の働きについて問う(オ)はいずれも、定番でありながら受験生の理解をしっかりと測る良問であったと言える。</p>	<p>為替や税制、金利など、出題されやすいテーマというのがはっきりある領域なので、そうした重要事項は単に暗記するだけではなく、仕組みを理解し、それを自分の言葉で表現できるところまで持っていくことを目指そう。</p>
問6 公民 政治	<p>ここ数年続く入試の大きなトレンドであるSDGsを正面から取り扱った問題で、国内の政治制度から南北問題とグローバルサウスまで、幅広い視点が問われた。</p> <p>読むべき文字情報が多く、スピーディーに解答していくことが求められる一方で、(エ)など、説明の一部のみが間違えている紛らわしい選択肢を含んだ問題も見られ、読み取りの正確性も求められた。</p>	<p>単なる暗記ではなく、有機的な理解が必要なのはこれまで通り。</p> <p>一方で、昨年の参議院の緊急集会についての問題や今年の民間人閣僚についての問題など、細かい部分についても問われることが多くなってきている。</p> <p>広い視野で学習を進めよう。</p>
問7 分野横断型	<p>南アジアと日本の関係についてのレポートを軸にした、分野横断型の大問。</p> <p>ネパールとブータンの共通点について問う(ア)など、一見してあまり馴染みのないテーマを扱った問も見られたが、既習の知識をうまく使うことで応えることができるので、落ち着いて取り組むことが必要だった。</p> <p>日本のODAについて問う(エ)は、資料が多いうえに計算も必要で、最後の問いであることもあり、難しい問題だったと言える。</p>	<p>理科・社会の知識を覚えることは受験最終盤まで重要だが、入試形式の演習をやっておくのも重要。</p> <p>時間配分や資料を用いた問題の解き方など、テクニック、戦略的な側面も抑えておく必要があるのが入試。ある程度知識のおさらいを終えた終盤には意識的に取り組もう。</p>

2024 理科-①

- ・例年通り、問1～問8の出題で物理、化学、生物、地学の順番での出題となった。1つの問題で両方できて正解とする従来の完答形式の出題から配点が細かくなったことは、点数が取りやすくなった点といえる。
- ・しかし、難易度は高く、知識を知っているだけでは正解にたどり着きにくい問題が目立った。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	(ア)では光のプリズム、(イ)では輪軸という見慣れない題材となった。それぞれ、光の屈折、仕事の原理を使うのであったが、知っている知識をどのように使うか考えさせる問題であった。(ウ)では作用、反作用の問題が出題された。	難易度の高い問題や、見慣れない実験に関する問題もあるが、解くために必要なものは基礎知識が前提。
問2 化学小問	(ア)では溶解度曲線の読み取り問題が出題された。(イ)では炭酸水素ナトリウムの分解を示す化学反応式に関する問題。過去には化学反応式の係数であったり、モデル図であったりと、反応式に関する問題は多く出題されている。今回はモデル図からそれぞれの記号が何の原子なのかを推測して答えるものであった。(ウ)はダニエル電池の仕組みを問う問題。ダニエル電池に関しては過去に何度も出題されており、知識があれば解けた問題であった。	まずは基本的な知識を身に付けておくこと。
問3 生物小問	(ア)はアブラナとマツのつくりに関する問題。(イ)は動物と植物の細胞に関する問題。どちらも基本的な内容であった。(ウ)は入試ではよく見かけるだ液とでんぷん溶液の実験問題。知識だけでは解けず、「実験結果から分かること」を答える近年の神奈川県の入試傾向と近い出題となった。	過去の神奈川県入試の問題で触れられている単元はもちろん、全国入試でよく出題される基本問題を解き、理解を深めていくこと。
問4 地学小問	(ア)は地層の観察から堆積した順番を導く問題。問題文から情報を引き出し、知っている知識から答えを推測するもので、難しく感じた受験生も多かっただろう。(イ)と(ウ)は天体の問題。金星や月の見え方の基礎知識で答えを導けるものであった。(ウ)では太陽の南中高度に関する問題であったが、地域によって南中高度がどのように変わるかという視点は、過去に何度も出題されているものである。	単に用語を覚えるのではなく、それが意味するものやなぜそうなるのか原理もあわせて理解する必要がある。

2024 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 電流と磁界	<p>コイルに電流を流したときに受ける力を考え、交流電流につないだコイルの振動から出る音の周波数の変化を読み取る、という電流、磁界、音の単元を横断した融合問題。このような実験を見たことある受験生は少なかったと思われる。実験の結果が何を示しているのか判断する必要があった。</p> <p>その中でも(ア)ではコイルが受ける力の向きを、(イ)では力の大きさを考える問題で、この実験の中では比較的手を付けやすいものであった。</p>	<p>各問ではメインとなる実験や観察に関することから出題となっている。</p>
問6 電解質水溶液と中和	<p>水溶液に電流をどのくらい流れるのかを観察した問題。電流の大きさを示すグラフはあまり見ることのないもので、グラフをどう使うか考える必要があった。(ア)では非電解質の知識問題、(イ)では電気分解で発生する気体の組み合わせを問う問題で、基礎知識で解ける問題であった。(ウ)では中和のモデル図が出題された。(エ)はグラフを使う問題で思考力の問われる難度の高いものであったが、完答形式ではなかった。</p>	<p>資料を読み取ったり、考察したりする前に基礎知識で答えを導けるものがある。今年の問題でも、難しい問題や複雑な実験問題が目立ったが、各問題の中には基礎的な問題も含まれている。まずは基礎を身につけよう。</p>
問7 遺伝	<p>モルモットの毛の「色」と「長さ」を遺伝子の組み合わせから推測する問題。遺伝の問題の多くは1つの形質にのみ注目するが、今回は毛の色と長さという2つに注目することが求められた。問題文には①から⑧の情報が記述され、そこから顕性や潜性を読み取る必要がある。さらに、文を読みながら遺伝子の組み合わせも考えなければならず、表を使って組み合わせを考える作業時間も必要であったことから、時間を取られた受験生が多かっただろう。</p>	<p>その上で、実験や観察の問題に多く触れ、初めて見るような問題でも対応できるよう、原理原則をおさえていくことが必要である。</p>
問8 天気	<p>地学分野では天気が出題された。(ア)は前線に関する知識問題、(イ)は図から温度と湿度を読み取り、水蒸気量を考える問題。(ウ)、(エ)は図や表から前線の動きを判断する思考力が必要な問題であった。</p>	